

● 畳の魅力伝える挑戦

近年は住宅設計から和室が減り、畳のない家が増えました。畳業界としては厳しい状況にあると言えます。だからこそ、畳の良さや魅力を積極的に発信することが必要だと考えています。

その一環で、畳の製造や設置工事だけでなく、畳の素材をベースにした工芸品の制作活動も続けてきています。このような作品を作ろうと思ったのは、技能グランプリに挑戦したことがきっかけでした。60代で出場し、思うような結果が出なかった悔しさから、要因は自らのメンタルの面にあると受け止めて、克服するためには「もっと難しいことに挑戦しよう」と考えたのです。そこで、通常は平面体である畳を立体作品にすることで技術を磨き、作品を見てもらうことで畳に関心を持ってもらうきっかけをつくることを目指しました。



湯田温泉の本社外観



本社に展示されている畳工芸品
「国宝 瑠璃光寺五重塔」



平川工場のアトリエに飾られている「ちよるる」などのオブジェ

最初に制作したものが高さ2メートルを超える「国宝 瑠璃光寺五重塔」でした。初めての取り組みだったので試行錯誤を繰り返しながら仕事の合間に制作を進め、完成まで1年を要しました。そのほか「岩国城」や、山口県PR本部長(公式キャラクター)の「ちよるる」なども制作しています。それぞれの畳工芸品は、市内外の施設や、様々なイベントで展示してきました。



ミニ畳づくり体験の様子

現在、作品の一部は創業した場所である湯田温泉の本社に展示しています。展示するようになったのは、2年前にニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52カ所」に山口市が選ばれたことがきっかけです。

創業した当時、本社のある通りは当社のほかにも多くの商店が立ち並ぶにぎやかな通りでしたが、時代の流れとともに駐車場になるところが増え、当時と比較すると寂しい印象になってしまいました。そこで、通り掛けに見て目を引くもの、面白いものを置けば、訪れた方に楽しんでもらえるのではないかと、五重塔や岩国城等のオブジェとともに、小物作り体験と販売店として整えています。又、夜でも楽しめるように、夏は20時まで、冬は19時まで照明はつけておりますが、この事が話題になり、メディアに注目されて複数のテレビ局から取材を受けて放送される事になりました。



県内の畳職人3人で共同制作した
長さ4mの「SLやまぐち号」

● 国際交流で日本の文化を世界へ発信

数年前から、海外の若者とICYE JAPAN (NPO法人 国際文化青年交換連盟日本委員会) のご紹介により、ホームステイをホストファミリーとして受け入れて、国際交流が出来る機会がありました。その間、観光や体験を通して、山口の歴史や文化を研修し、ものづくりの楽しさと畳の良さを共有する事が出来ました。

このようなふれあいにより、畳を海外にアピールするチャンスとなり、海外に向けて畳の素材を使った小物の販売をする話が進んでいます。

海外での販売には様々な壁もあると思うので、国内でしっかりと認知度を高め、畳の価値を理解してもらい取り組みを進めながら実現できたらと考えています。

時代の流れ、変化が早く、何をするのが良いのか分からないというところはあります。ただ、畳は良いものだと多くの人知っているはず。和室が減っている時代だからこそ、新しい素材やデザイン、そしてミニ畳づくりといった体験活動などを通じて、畳の良さを広く伝える取り組みを続けていきたいと思えます。

出会いは大切に
ふれあいに真心を
絆はより強く



We value encounters.
We interact with sincerity.
The bond will be stronger.